

## 小さな顔

国府台駅から  
赤レンガや貯水槽が  
残っている軍用跡地を歩いた

母屋の座敷には  
年老いた遺影がいくつも  
掲げられていたが ただ一つ  
大卒の剥げた所がない  
星一つの帽子と軍服の遺影があつて  
ほっそりした中学生のような  
顔立ちで 写されていた  
それが 伯父さん 父の兄であつた  
(次男の父が この家の跡継ぎになつた)

祖父が亡くなつてから  
なぜか 遺影が片づけられた  
一番大きな柩の中で  
その面影は 誰よりも小さかつた  
フィリピンで鉄砲玉に当たつて  
六年生になるまでに  
聞いたのは その一言だけで  
お盆になると 伯父のために  
お経が唱えられた

国府台には 陸軍の  
野戦重砲隊や病院があつて  
太平洋の島々ではなくて  
大陸に渡つたのであろうが  
江戸川の入り口で  
出て行くことがあつても  
帰って来ることが  
あつたか なかつたか

江戸川から  
国府台駅に帰つて来て  
やつて来た列車に  
乗り込んだ